育てよう 鏡野のよい子シリーズ

「聞いてもらう」ということ

子どもたちは、聞いてほしいことをもっています。どう聞いてもらうかで、やりとりは変わっていきます。聞いてほしい「ことがら」には、聞いてほしい「気持ち」がくっついているので、「こうしては」とアドバイスしても、すぐには、すっきりした表情になれません。「うんうん」「それで?」「そうだったん」「その時、そう思ったんじゃな」「今、どう?」時には「それは、こういうことかな?」と聞かれて考えることも。こんなやりとりで、声や表情が少しずつ変わってきます。

話を聞いてほしい時、たどたどしくても十分に言え、その気持ちを受け止められる。そうするうちに、もつれていた理解や気持ちが整理でき、他人でなく自分自身のことに気づくこともあるようです。

こんな話を聞きました。三歳くらいの女の子が診察をいやがってぐずり出しました。お医者さんは、女の子が抱いていたぬいぐるみのプーさんのお腹に聴診器を当て「いいよ」、耳にも「いいよ」、足の裏まで丁寧に診察して、最後に「だいじょうぶだよ」とプーさんの頭をなでました。女の子は、それから静かに診察に応じたそうです。

公園での光景。幼い子が転んで泣き出しました。すると、四歳くらいの男の子がやってきました。そして、転んだ子のそばで一緒に腹ばいになり、にこっとしました。すると、幼い子は泣き止みました。それから「起きようね」と言うと一緒に立ったそうです。どちらも、形態は異なりますが、自分の気持ちを受け止めてもらったことで、前に進めたようです。

では、聞き上手になるには、どうすればいいのでしょうか。それは、聞いてもらう体験を重ねることです。聞くこと（傾聴）は、人と向き合いながら、実際は自分と向き合っていると言えるのです。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会
上齋原小学校　仲矢　昌史

のびのびひろば

食べるのだ〜いすき♥

月齢や咀嚼の状態、食物アレルギーの有無、家庭で食べたことがあるかどうかなど、保護者と担任、給食担当者が連携を取って、一人一人に合わせた離乳食を食べています。

0歳児、手づかみやスプーンを使って自分で食べることを喜んでいます。

1歳児、「じぶんで」とスプーンやフォークを持ってパクパク…味の好き嫌いも出てきました。

全園児数169名のうち、0〜2歳児の小さな子ども達62名が、認定こども園芳野保育園で過ごしています。園生活の中で子ども達が楽しみにしていることの一つに給食があります。

みんなで一緒に食べる中で、いろいろな味を経験できるようにしたり、噛む力を育てたり、身近な野菜に親しんだり、あいさつやスプーン、箸の持ち方などのマナーを伝えたりしながら、小さい時から楽しい食事ができるようにしています。

2歳児、「きょうはなに?」と毎日楽しみにしている給食。箸の持ち方などを褒められると、はりきって食べています。

2〜5歳児が春の七草を一緒に探しに行きました。見つけた七草は、おやつの七草粥にして食べました。

園内の畑を見に行っては、野菜の成長を喜んでいます。

（認定こども園芳野保育園）